

# 試験経過記録

区分 仙臺

長崎 営林署

(様式4)

## 1. 目的

皆伐天然林下種更新地においてイヌキを植栽し、天然有用広葉樹導入と組み合わせ、用材林としての育成方法を確立する。

## 2. 調査結果

調査プロットの苗長と根元径について計測し、平均値を表-1に示す(T=0)

## 2. 試験地

### (1) 設定前の林況

天然アカマツが20%混交する33年生広葉樹天然林で、昭和59年度皆伐(跡地)である。

(2) 場所 万助山国有林67.2林小班

(3) 面積 0.10ha

(4) 設定 昭和61年3月12日

### (5) 設定要領

イヌキ2年生苗木200本を地帯のヒトツグ植とした。

表-1 調査結果表

区分	植付時	61年度	62	63	元	2	3	4	5	6	7	伸長量
苗長	41.7	51.4	62.12	102.29	134.9	168.2	190.08	238.82	269.39	324.88	330.05	288.45
根元径	6.12	6.42	7.43	10.25	12.96	21.0	24.63	29.36	34.52	36.76	37.12	37.00
枯損	0	2	3	0	0	(先折れ) 1	0	4	1	0	0	11

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。  
2. 状況写真は別途整理する。

# 状 況 写 真

区 分 伊 豆

長 崎

管 林 署

( 様 式 6 )



平成 8 年度技術開発実施報告書

様式 2-2

課 題 名	イヌマキ人工更新法				
課題区分	任 意	開 発 箇 所	長崎営林署 瀬戸(森) 万助山国有林 67い2林小班	開 発 期 間	自昭和61年度 至平成13年度
当年度実施計画			当年度実施報告		
1 生長量調査 2 林分構成状況調査 3 有用広葉樹生長量調査 4 保育作業 (除伐)			1 生長量調査 調査結果 8年度平均値 苗長 336.24cm 根元径 37.65cm 枯 損 0本 2~4 不実行		

平成9年度技術開発実施報告書

様式2-2

課題名	イヌマキ人工更新法			
課題区分	任意	開発箇所	長崎営林署 瀬戸(森) 万助山国有林 67い2林小班	開発期間 自昭和61年度 至平成13年度
当年度実施計画		当年度実施報告		
<p>1 生長量調査</p> <p>2 林分構成状況調査</p> <p>3 有用広葉樹生長量調査</p> <p>4 保育作業 除伐</p>		<p>1 生長量調査 調査結果 9年度平均値 苗長 399.00cm 根元径 4.61cm 枯損 3本</p> <p>2～3 不実行</p> <p>4 保育作業 除伐</p>		

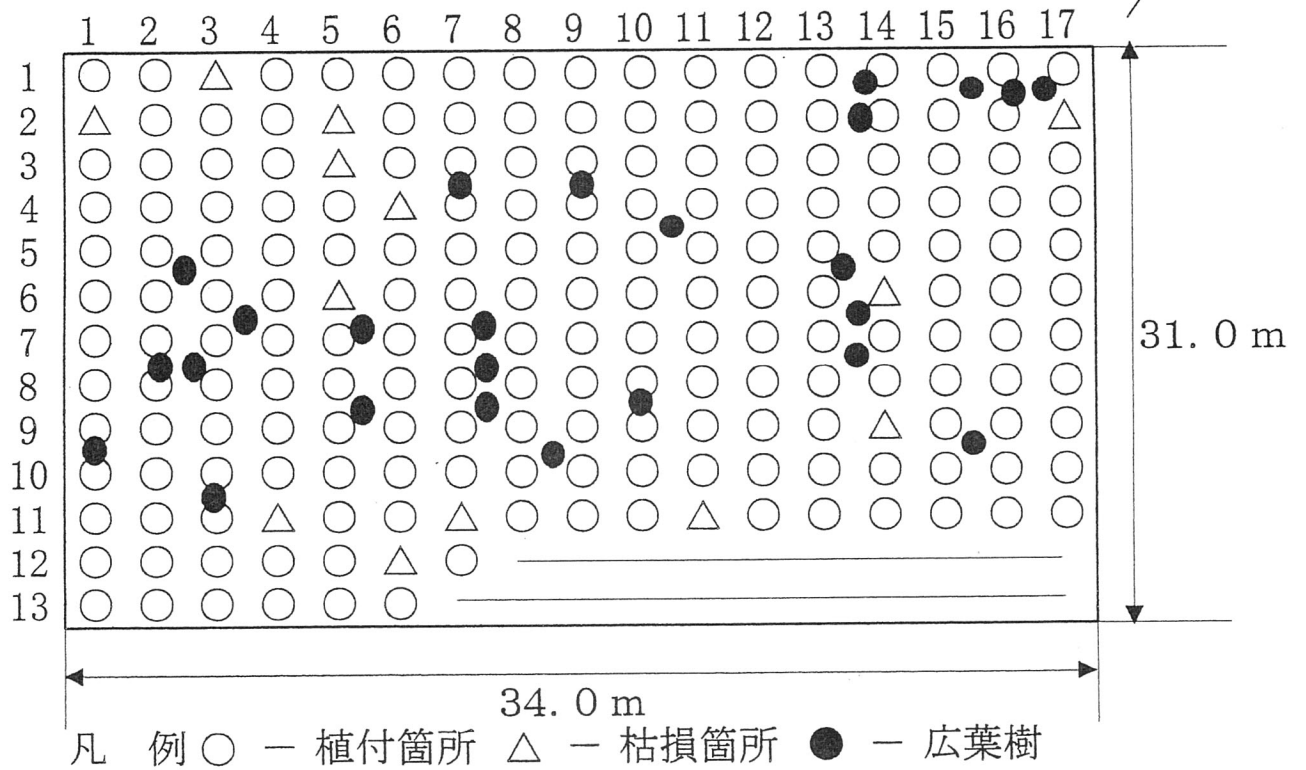
平成 1 0 年度技術開発実施報告書

様式 2-2

課題名	イヌマキ人工更新法				
課題区分	任意	開発箇所	長崎森林管理署 瀬戸(森) 万助山国有林 67い2林小班	開発期間	自昭和61年度  至平成13年度
当年度実施計画			当年度実施報告		
<p>1. 生長量調査</p> <p>2. 林分構成状況調査</p> <p>3. 有用広葉樹生長量調査</p>			<p>1. 生長量調査</p> <p>苗長 399.00cm (18.0cm)</p> <p>根元径 52.90cm (6.78cm)</p> <p>枯損 0本</p> <p>( )は、前年比</p> <p>2. 林分構成状況調査</p> <p>9年度に、除伐を行い広葉樹26本、イヌマキ187本現存している。</p> <p>イヌマキ88%</p> <p>広葉樹12%</p> <p>3. 有用広葉樹生長量調査</p> <p>広葉樹は、タブ7本・シイ15本・カシ4本</p> <p>各樹種の樹高及び径級(胸高)</p> <p>タブ 樹高 6~7m径級6~14cm</p> <p>シイ 樹高6~11m径級6~14cm</p> <p>カシ 樹高 6m径級6~10cm</p>		

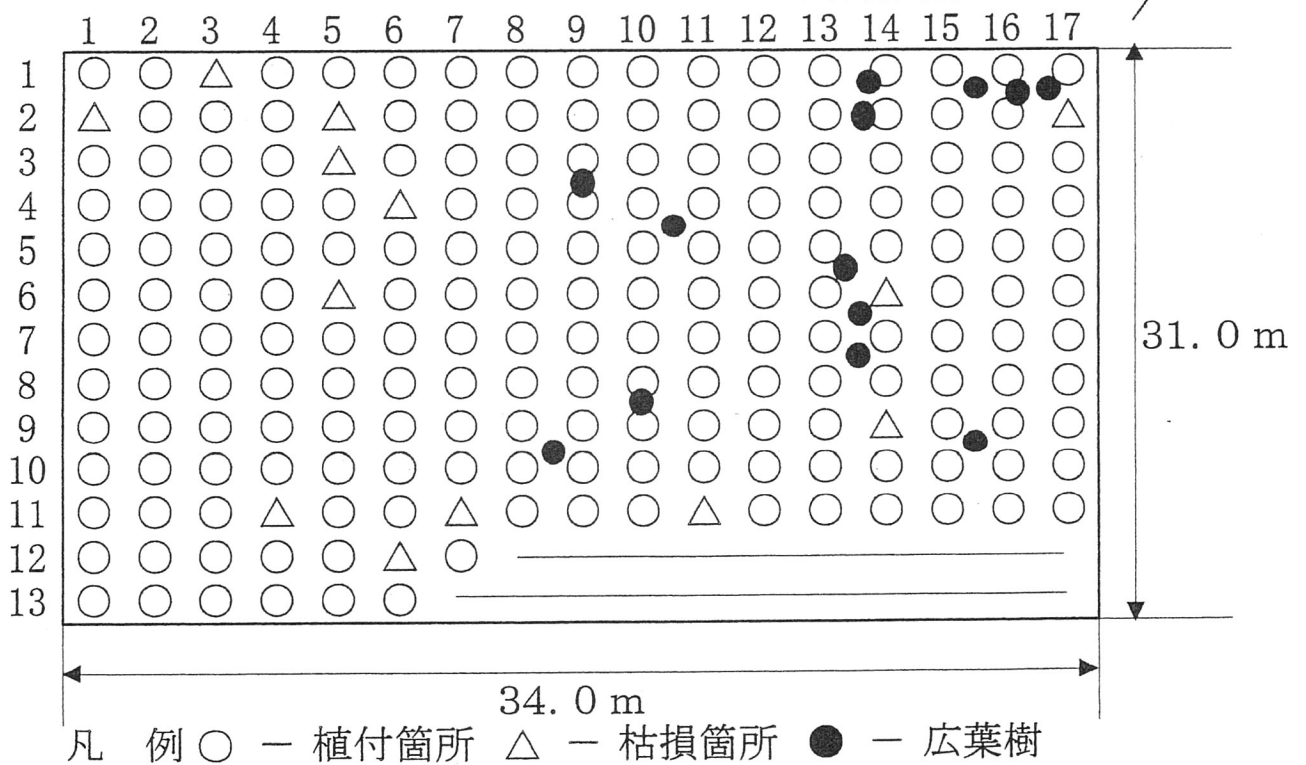
イヌマキ及び広葉樹林分構成図

広葉樹伐採前



イヌマキ及び広葉樹林分構成図

広葉樹伐採後





イヌマキ人工更新  
試験地

67い1

位置図区域図



対象地設定前  
状況



同上